

文化スポーツ観光部

実施計画事業

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	7	説明資料	20	項目番号	2(1)
事務事業名	都市魅力PR事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	音楽やダンス・エンターテインメントによるにぎわいの創出					
	小柱	④大河ドラマの活用					
目標	横須賀らしいエンターテインメントによる賑わいづくりや話題性のある取り組みを横須賀の都市の魅力として情報発信を行うことにより、市内外からの集客を生み、市内経済の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	・音楽、スポーツ、エンターテインメント、地域資源を活用した取り組みなどを都市魅力として、情報発信を行う。 ・伝えたい情報に適した媒体を検討し、時世にあった発信を行う。						
具体的な事業内容	本市の特性やポテンシャルを生かした新たな都市魅力を創出、PRするための取り組みを行う。 エンターテインメントをテーマに、アートやダンス、音楽、地域資源の活用に関する発信力の高い取り組みを実施することで、街の賑わいを創出し、新しい都市魅力に繋げる。						

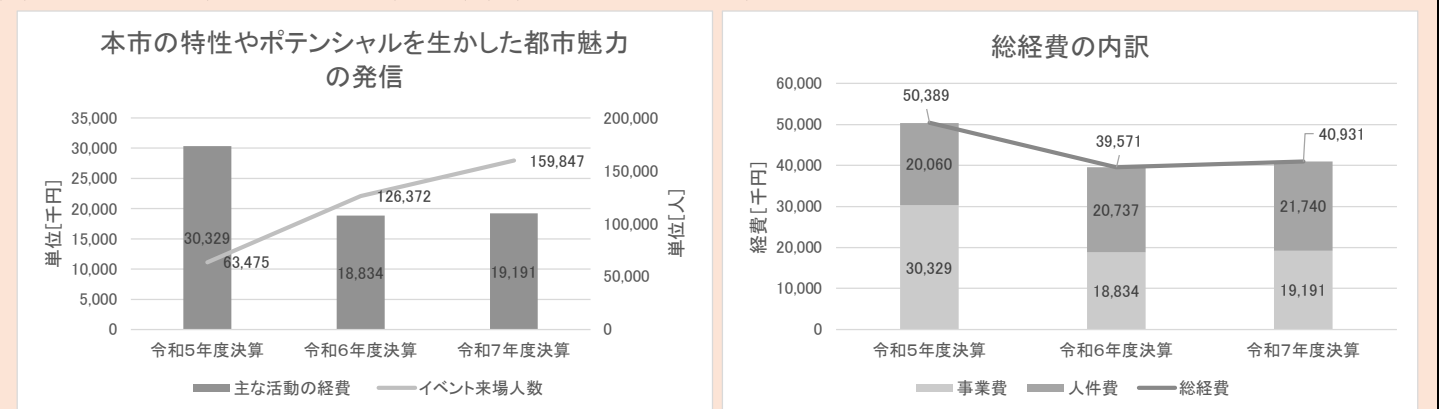
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するためにを行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① 本市の特性やポテンシャルを生かした都市魅力の発信	イベント来場人数	63,475	126,372	159,847	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	30,329	18,834	19,191	20,536	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	30,329	18,834	19,191	20,536	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b 人件費	20,060	20,737	21,740	21,633	千円
正規職員	2.0	2.0	2.0	2.0	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	3,268	3,595	3,874	3,927	千円
総経費（a + b）	50,389	39,571	40,931	42,169	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	民間事業者と連携した大規模イベント等(オクトーバーフェスト、ワインフェスティバル)の拡充、新規誘致などを行いながら、横須賀のポテンシャルを活かした話題性のある取り組みを中心に情報発信を行い、市内外からの集客数の増加につながる取り組みを実施した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	これまで実施してきた民間事業者と連携した大規模イベントの開催に加え、さらなる新規イベントの誘致、プロモーションアドバイザー提案のイベント開催など、横須賀のポテンシャルを活かした話題性のある取り組みの情報発信や、市内外からの集客数の増加につながる取り組みを実施した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	・令和5年度は、浦賀ドックを活用したイベントやウインターイルミネーションの新規開催などにより事業経費が増えていたが、令和6年度からは事業規模の見直しを図りつつ、ヴェルニー公園での「オクトーバーフェスト」や「ワインフェスティバル」など話題性や集客力があり、都市魅力の向上に資するイベントを中心に、取り組みのターゲットや特徴に適した手法や媒体を活用しながら情報を発信したことで、事業費の削減とイベント来場人数の向上につながった。 ・令和7年度は、民間事業者による新規イベントや、プロモーションアドバイザー提案のイベントなど、民間連携イベントを開催したことで、事業費を増加するとともに都市魅力の向上に資するイベントの実施や本市の情報発信につなげた。		
今後の事業 の方向性	各取り組みのターゲットや特徴に適した手法や媒体を検討して、情報発信を継続し、「本市の都市魅力」の認知の拡大と定着を図る。また、新たな都市魅力創出につながる民間の取り組みなどとの連携や支援を積極的に行う。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	24	項目番号	2(5)
事務事業名	ルートミュージアム推進事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										観光課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	①ティボディエ邸と周辺の仕掛けづくり					
目標	ルートミュージアムの中核拠点である「ティボディエ邸」の管理・運営を行うとともに、ティボディエ邸及びルートミュージアムの認知度向上と集客促進に向けた取り組みを行い、多くの観光客に市内周遊を促し、長時間の滞在と消費増を目指し、地域経済の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	ティボディエ邸館内の魅力向上を図るとともに、ティボディエ邸周辺でのイベント等との連携や主催イベント等を実施することで認知度の向上と来館契機を創出し、集客と周遊を促す。						
具体的な事業内容	・ティボディエ邸の管理運営 ・ティボディエ邸の認知度向上と来訪を促すためのパンフレット・チラシ制作 ・周遊を促すVRコンテンツ制作と周知PR						

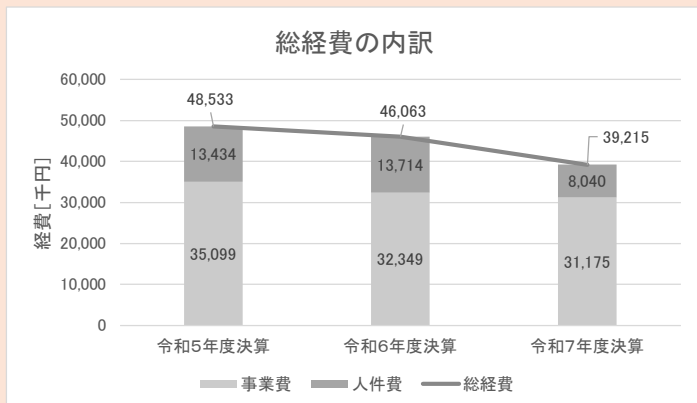
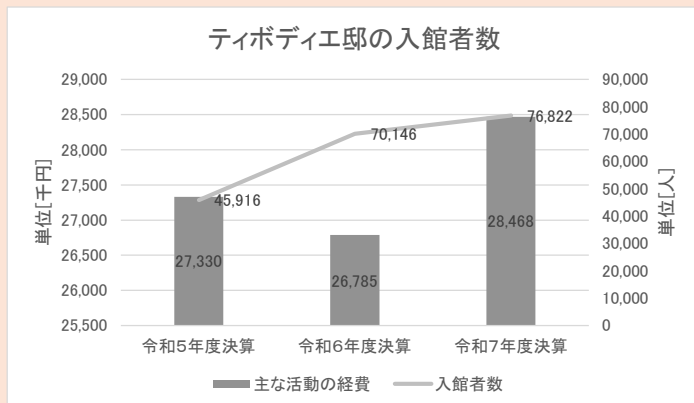
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① ティボディエ邸の入館者数	入館者数	45,916	70,146	76,822	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
② ティボディエ邸のパンフレット・チラシ制作	印刷部数	26,000	43,000	20,000	部
③ VRアプリのダウンロード数	ダウンロード数	4,612	2,414	2,184	回

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	35,099	32,349	31,175	33,826	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	27,330	26,785	28,468	28,468	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	7,769	5,564	2,707	5,358	千円
b 人件費	13,434	13,714	8,040	7,968	千円
正規職員	1.6	1.6	0.9	0.9	人
再任用職員（短時間を含む）					人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）					千円
総経費（a + b）	48,533	46,063	39,215	41,794	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	シアター映像をPRするチラシを制作し、配布した。 公園内のイベントと連動するイベントを実施した。 施設外側に植物等を設置し、入館しやすい雰囲気を作った。 汐入駅前の案内板更新、施設入口に銘板を設置した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	市民向けサテライトツアーを行わなかった。 夏休み親子シアター映像解説教室を開催しなかった。 ティボディエ邸への案内・誘導看板を製作しなかった。 シアターの更新修繕を行った。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と 【総経費の内訳】の増 減理由等)	令和7年度は、公園内のイベントと連動したイベントの実施を強化し、来館者増を図った。これまで実施していたイベントも見直しを行い、費用圧縮を行った。シアターの更新修繕を行った。 【R5→R6】事業費については、実施内容や実施回数の変更、見直し等により、当初の見込みを下回った。来館者数は、上記の主な活動のほか、指定管理者の運営努力、天候等の外的要因も味方して、開館以来過去最高を記録した。 【R6→R7】事業費については、実施内容や実施回数の変更、見直し等により、前年度を下回った。来館者数は、ヴェルニー公園のイベントとの連携、指定管理者の運営努力などにより、過去最高を記録した。		
今後の事業 の方向性	年間を通じてヴェルニー公園のイベントと連携するなど、ルートミュージアムの起点として認知度向上と来館契機創出に取り組む。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	25	項目番号	2(6)
事務事業名	街なかミュージック支援事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	音楽やダンス・エンターテインメントによるにぎわいの創出					
	小柱	①音楽によるにぎわいづくり					
目標	市、事業者及びアーティストが協力し、街なかをステージとした音楽ライブの場を創出・提供していくとともに、アーティストやその活動、イベント情報を発信し、常に音楽のあふれた、ワクワクする街づくりを進めていく。						
目標達成に必要なこと	街なかで音楽に触れ合う機会の充実として、音楽ライブの実施やいつでも音楽を奏でる場所を提供するとともに様々な媒体で情報発信する。						
具体的な事業内容	・街なかをステージとした音楽ライブ ・トモダチジャズと連携した音楽イベント ・バンドグランプリの開催 ・SNS等を通じた音楽の発信 ・ヨコスカ街なかピアノの維持管理						

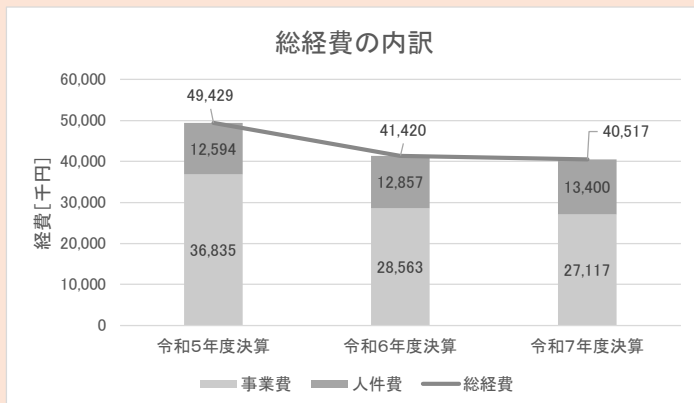
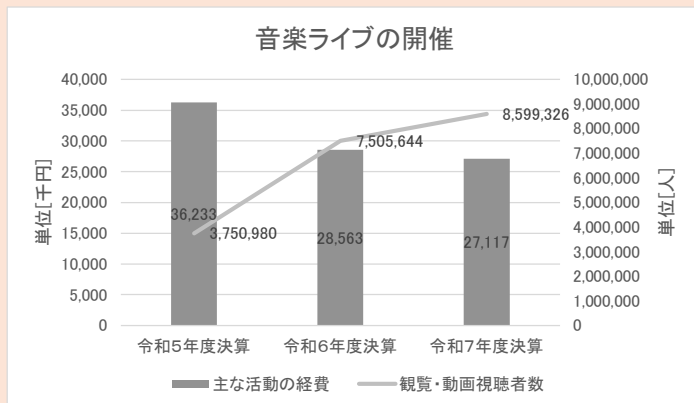
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目 1 つ)	活動（指標）名	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	単位
① 音楽ライブの開催	観覧・動画視聴者数	3,750,980	7,505,644	8,599,326	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	36,835	28,563	27,117	29,350	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	36,233	28,563	27,117	29,350	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	602	0	0	0	千円
b 人件費	12,594	12,857	13,400	13,280	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	49,429	41,420	40,517	42,630	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	令和5年度に実施したトモダチジャズと連携した音楽イベントの開催内容の見直しを実施したほか、インフルエンサーとのタイアップをはじめ、オフラインとオンラインの音楽ライブ開催を展開した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	音楽好きなミドル世代に向けて行ってきたバンドコンテスト、シニア世代向けのスプリングコンサートなど、各年代に合わせた音楽シーンを開催し、音楽のジャンルの幅を横展開した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	・令和5年度は、バンドコンテストやジャズをテーマにしたオフラインの音楽ライブを実施して、実際に市内へ誘客を図ることで街なかの賑わいを創出するとともに、同時にオンラインでの発信を行うことで、広く横須賀の魅力をPRした。観覧・視聴数としては、コロナによるオンライン配信の需要が落ち着いてきたこともあり減少することになったが、実際の集客を伴う音楽ライブを開催することにより市内消費を促進した。 ・令和6年度は、事業費規模を抑えながらも令和5年度に実施したイベント内容を継続して実施したほか、YouTubeチャンネル登録者100万人を超えるインフルエンサーがヨコスカ街なかピアノの演奏動画の配信を行った。 ・令和7年度は、令和6年度と同等の事業費規模を維持しつつ、引き続き街なかをステージとした音楽ライブやインフルエンサーを活用し「音楽のまち よこすか」をPRした。		
今後の事業の方向性	音楽の力を通して、以下のような魅力発信を行うことで、今後も街なかには音楽が溢れる環境を醸成して、関係人口や新たな投資の増へつなげていく。 ・横須賀らしい風景の中での音楽インフルエンサーによる魅力発信 ・地元音楽家と連携した魅力発信 ・大規模音楽イベントの開催による魅力発信 ・スポーツなど他のコンテンツと連携した魅力発信		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

(1) 事務事業の概要							
実施分類	執行年度	財源構成	予算	実行状況	実績	事業終了の月日	備考

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
------	------	------	-----	-------	----	---------	----

分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務			
根拠法令				
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興		分野別計画
	中柱	音楽やダンス・エンターテインメントによるにぎわいの創出		
	小柱	②ダンスによるにぎわいづくり		
目標	アート、ダンス、音楽を切り口とした横須賀らしいエンターテインメントによる継続的な賑わいづくりを、横須賀の都市魅力として内外に発信する。エンターテインメント＝横須賀のイメージが広く認識されることにより、地域ブランド力の向上と地域活性化を目指す。			
目標達成に必要なこと	・横須賀ならではの地域資源の活用 ・民間企業との連携による、より話題性の高い取り組みの実施			
具体的な事業内容	エンターテインメントをテーマに、アートやダンスに関する発信力の高い取り組みを実施することで、街の賑わいを創出し、新しい都市魅力に繋げる。			

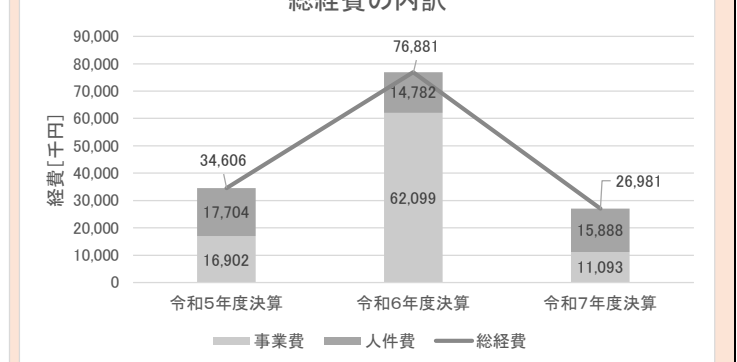
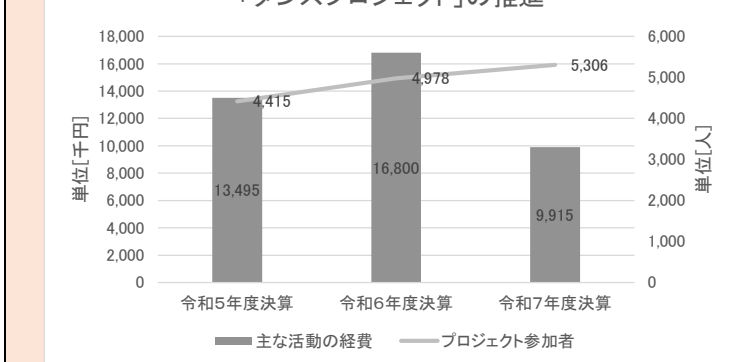
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
---	---------	-------	-------	-------	----

①「ダンスプロジェクト」の推進	プロジェクト参加者	4,415	4,978	5,306	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和５年度	令和６年度	令和７年度	単位
②「猿島アートプロジェクト」の実施(隔年開催) ※令和7年度で事業終了	猿島及び有料イベント来場者数	108	2,411	実施なし	人
③					

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
-----	-----------	-----------	-----------	-----------	----

a	事業費（予算現額・支出済額）	16,902	62,099	11,093	12,285	千円
	主な活動の経費（※上記(2)①）	13,495	16,800	9,915	10,082	千円
	その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	3,407	45,299	1,178	2,203	千円
b	人件費	17,704	14,782	15,888	16,485	千円
	正規職員	1.5	1.0	1.0	1.0	人
	再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
	会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	5,110	6,211	6,955	7,632	千円
	総経費（a + b）	34,606	76,881	26,981	28,770	千円

「ダンスプロジェクト」の推進 総経費の内訳



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	令和5年度に開催した3大会を令和6年度も引き続き開催したほか、新たに、小学生限定ダンス大会「LiL WiLD」の決勝大会を誘致・開催した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	令和6年度に開催した4大会をR7年度も引き続き開催した。「高校ストリートダンスグランプリ」は予選大会を2回から3回に増やして開催した。また、継続開催によるノウハウの蓄積等を踏まえ、民間連携により、大会にかかる経費の見直しや負担割合の調整を行い、市共催の大会開催にかかる負担金を減額した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と 【総経費の内訳】の増 減理由等)	令和5年度は、令和4年度に誘致・開催した「JAPAN DANCE DELIGHT 横須賀大会」と「高校ストリートダンスグランプリ」を継続開催するとともに、市内小中学生を対象としたダンスバトルを市主催で初開催した。 令和6年度は、新たに全国の小学生対象の大会「LiL WiLD」の決勝大会を誘致・開催した。加えて、ダンスプロジェクトのシンボルキャラクター制作およびノベルティ制作も行ったことから、経費が増加している。アートプロジェクトについては、開催年度にあたることから、前年度と比べて経費が大幅に増加した。 令和7年度は、「高校ストリートダンスグランプリ」の予選大会を1回増やしたことで参加者数が増加したが、市共催の3大会にかかる負担金を減額したことにより、経費は大きく下がった。アートプロジェクトについては、令和7年度から事業を廃止とした。		
今後の事業 の方向性	ダンスプロジェクトは、既存の大会を民間連携により継続開催するとともに、市主催のダンスバトルは三浦半島4市1町連携事業として拡充させ、「アーバンスポーツのまち横須賀」のイメージ定着とさらなる盛り上げを図る。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	20	説明資料	36	項目番号	2(1)
事務事業名	美術館展覧会事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										美術館運営課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	その他	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法律や政令で実施が定められているものの、その実施内容や実施方法、実施体制については市に委ねられている業務						
根拠法令	博物館法						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市教育振興基本計画
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	⑥美術館の集客力の向上					
目標	次世代を担う子どもたちを含めた多くの人々が、質の高い美術に対する深い理解と親しみを心得、心の豊かさを充足する機会を提供する。また、郷土ゆかりの作品を展示し、市民や作家の交流を通じて、新たな文化を発信する。						
目標達成に必要なこと	すべての人に開かれた美術館であるために、年間の企画展・所蔵品展を通じて幅広いジャンルの展覧会を開催する。展覧会の効果を最大限発揮するために、教育普及事業や、他部課や民間事業者と連携をはかる。						
具体的な事業内容	・多くの人に親しみやすく、集客を見込める展覧会の開催。またそれに関連するイベント等の実施。 ・親子を対象にした、質が高くかつ身近に感じられ、美術館に親しめる内容の展覧会の開催。 ・横須賀、三浦半島という地域に関連のある展覧会の開催。 ・横須賀美術館のコレクションを核とし、調査研究をふまえて新たな着眼点で構成する所蔵品展、谷内六郎展の開催および情報発信。						

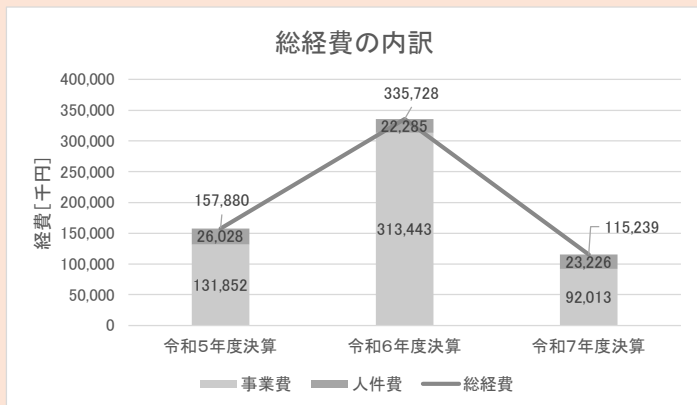
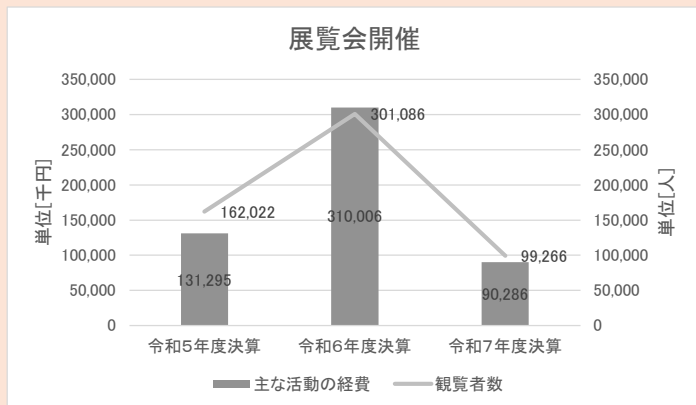
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① 展覧会開催	観覧者数	162,022	301,086	99,266	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
② 展覧会に関連したイベント等の開催	開催回数	3	3	1	回
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	131,852	313,443	92,013	69,732	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	131,295	310,006	90,286	67,615	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	557	3,437	1,727	2,117	千円
b 人件費	26,028	22,285	23,226	23,018	千円
正規職員	3.1	2.6	2.6	2.6	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	157,880	335,728	115,239	92,750	千円

(4) 年度ごとの推移 (【主な活動の実績 (※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	前年度に引き続き箱根との連携として箱根彫刻の森美術館と「響きあう20世紀美術」を、さらに運慶仏5尊の展示、サルバドール・ダリ展を開催した。そして、R5年度からジブリ展を引き続き展示し、観覧者数が増大した。企画展の本数も例年6本から8本に増えている。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	前年度に引き続き箱根との連携として「箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション」を、さらに「住友洋画コレクション」「浦賀と住友重機械工業」、当館初の建築展「山本理顕展」を開催した。施設の休館工事のため企画展の本数は例年6本から4本に減っている。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	主な活動実績として「展覧会開催」を掲げている。 R5年度は箱根エリアとの連携企画や、「日本のロボット群像展」、そして何より3月下旬から人気の高い「鈴木敏夫とジブリ展」を開催したことによって、観覧者数を押し上げている。R6年度は前年度より続くジブリ展の爆発的な観覧者数の増加や、箱根彫刻の森美術館との連携展示、第二弾運慶展、人気の高いサルバドール・ダリ展により、過去最高観覧者数を記録した。またジブリ展の費用のため、総経費も上がっている。R7年度も箱根連携企画の第三弾、住友重機械工業との連携企画、そして美術館初の建築展「山本理顕展」と新たな取り組みによる企画展を開催した。企画展の内容は毎年変わるために、個々の展覧会にかかる経費や観覧者数には変動があり、目標人数は例年達成しているが、R7年度は工事休館のため企画展の本数が減り、総経費も下がっている。		
今後の事業の方向性	美術館展覧会事業は、社会教育に寄与し、本市の重要な魅力発信、まちづくりや観光事業にも寄与するので、事業は継続する。同時により質や効果が高い内容を検討する。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	21	説明資料	47	項目番号	3(6)
事務事業名	少年期スポーツ障害予防対策事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令	スポーツ基本法第14条						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	少年期のスポーツ障害を予防するためには、「怪我をしない体づくり」、「怪我をさせない環境づくり」が重要であり、これらを少年スポーツの現場に浸透させる。						
目標達成に必要なこと	本市の少年スポーツの現場における正しい知識の普及。						
具体的な事業内容	子どもたちが将来にわたってスポーツを楽しめる環境づくりの一環として、少年期におけるスポーツ障害予防対策を実施する。スポーツ整形の医師や本市で活動するプロスポーツチームなどの協力を得て、野球とサッカーの2競技を対象に、検診や予防トレーニングの講習などを実施する。 実施内容 1 医師による超音波検査 2 予防トレーニング講習 3 指導者向けの講話						

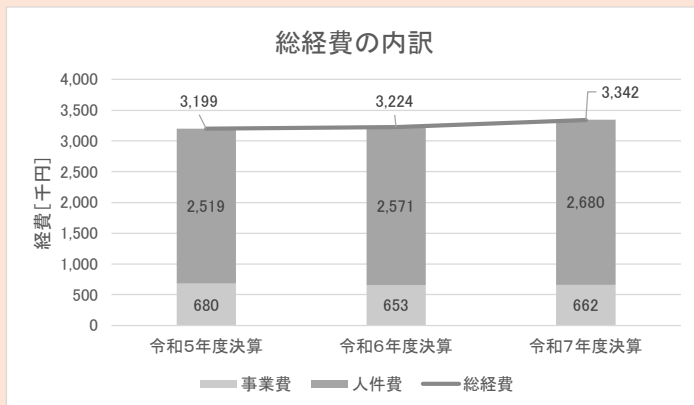
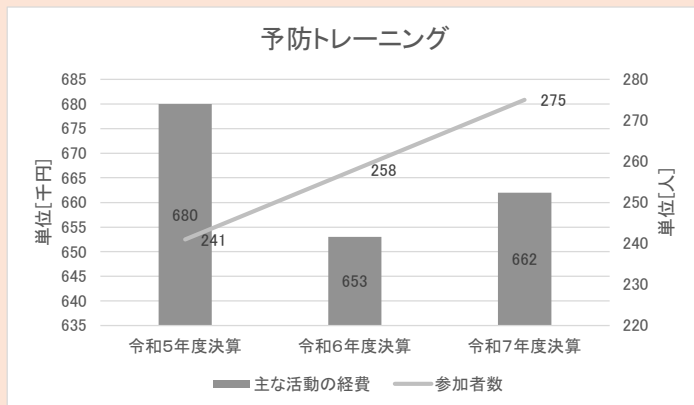
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動（指標）名	令和５年度	令和６年度	令和７年度	単位
① 予防トレーニング	参加者数	241	258	275	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和５年度	令和６年度	令和７年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	680	653	662	871	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	680	653	662	871	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b 人件費	2,519	2,571	2,680	2,656	千円
正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	3,199	3,224	3,342	3,527	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	指導者向けの講話において、令和5年度は対象種目をサッカー及び野球・ソフトボールとしていたが、令和6年度は対象を全種目に拡大した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	特になし
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和6年度は指導者向けの講話を検査・トレーニングと同日・同会場開催に、令和7年度は会場内の配置や動線の見直しを行い、運営の効率化や参加者が参加しやすい環境づくりに繋がった。 また年を追うごとに、本事業の認知度が上がっており、申込者が増加傾向にある。		
今後の事業の方向性	少年期にスポーツ障害に対する正しい知識を身につけてもらい、「怪我をしない体づくり」や、指導者も正しい知識を身につけることで、「怪我をさせない環境づくり」を横須賀市の少年スポーツの現場に浸透させるため継続して事業を行っている。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	21	説明資料	48	項目番号	4(5)
事務事業名	社会体育団体等補助金(スポーツ選手育成強化事業補助金)								所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令	スポーツ基本法第34条						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	各種目選手の競技力向上。						
目標達成に必要なこと	選手強化事業に取り組むための支援をすること。						
具体的な事業内容	スポーツ協会では、選手等のための食生活やケガ予防等についての講習会・講演会の開催、傘下種目団体へ事業交付金・活動奨励費の交付のほか、選抜選手強化事業、特定競技強化事業を実施している。						

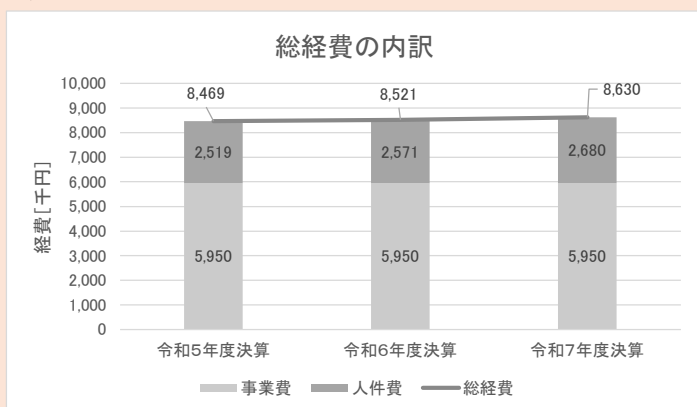
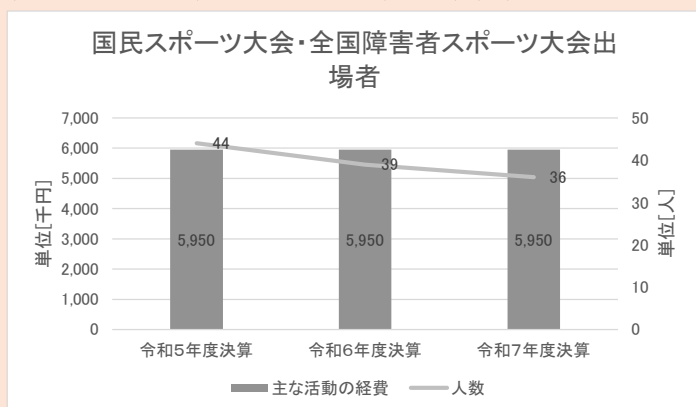
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するためにを行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会出場者	人数	44	39	36	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	5,950	5,950	5,950	5,950	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	5,950	5,950	5,950	5,950	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	0				千円
b 人件費	2,519	2,571	2,680	2,656	千円
正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	8,469	8,521	8,630	8,606	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R 5 年度⇒R 6 年度	特になし	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R 6 年度⇒R 7 年度	特になし
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と 【総経費の内訳】の増 減理由等)	令和6年度以降は概ね新型コロナウイルス感染症前の規模で実施することができ、講習会等の開催や国民スポーツ大会等の開催により激励費等が増加したものの、令和7年度は前年と比べて総経費は同程度となった。		
今後の事業 の方向性	次期オリンピック・パラリンピックを見据え、引き続き継続していく。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	21	説明資料	49	項目番号	6(1)
事務事業名	ホームタウンチーム活動推進事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	本市を活動拠点とするプロスポーツチームのホームタウンとして様々な連携を行い、トップアスリートと子どもを中心とする市民とのふれあいの機会を創出することで、スポーツに対する関心を高め、本市のスポーツ振興を図る。						
目標達成に必要なこと	子どもたちがプロスポーツ選手と触れ合う機会を創出すること						
具体的な事業内容	横浜DeNAベイスターズファームチーム：選手が小学校へ訪問、コーチ等が幼稚園に訪問 横浜F・マリノス：コーチが小学校・幼稚園・保育園・こども園に訪問						

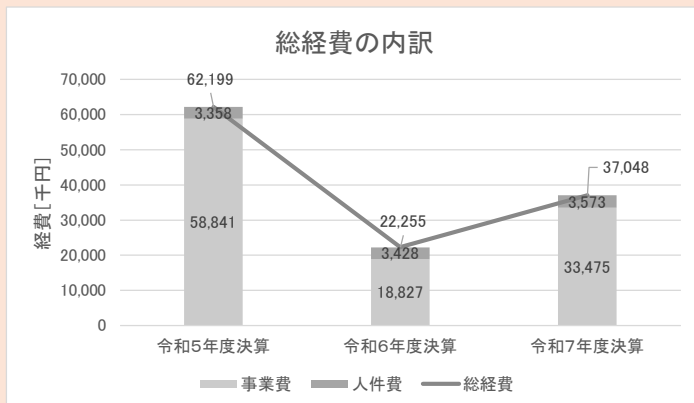
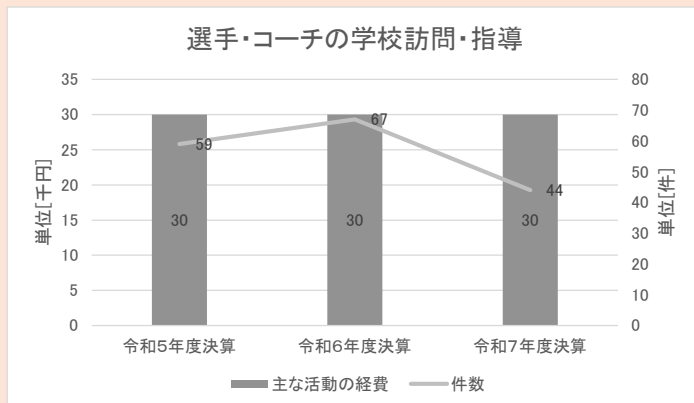
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するためにを行った 重要な項目1つ)	活動（指標）名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① 選手・コーチの学校訪問・指導	件数	59	67	44	件
その他の活動実績	活動（指標）名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
② 横須賀市こども招待デーのチラシ印刷・配布(ベ이스ターズ)	配布数	0	26,660	0	枚
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	58,841	18,827	33,475	43,110	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	30	30	30	30	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	58,811	18,797	33,445	43,080	千円
b 人件費	3,358	3,428	3,573	3,541	千円
正規職員	0.4	0.4	0.4	0.4	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	62,199	22,255	37,048	46,651	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	特になし	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	特になし
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と 【総経費の内訳】の増 減理由等)	【主な活動実績】 (令和5年度→6年度)希望する学校に可能な限り訪問できるよう調整を図った結果、訪問件数が増加した。(ベ이스ターズ・マリノス) (令和6年度→7年度)選手による学校訪問を調整していたが、チーム事情により翌年度に延期となったため回数が減となった。(マリノス) 【総経費の内訳】 (令和5年度→6年度)壁面装飾の委託が完了したことによる減。(マリノス) (令和6年度→7年度)ホームタウンチームが持つブランド力や資源を活用した市の観光PRや誘客・集客事業を実施したことによる増(マリノス)		
今後の事業 の方向性	引き続き、プロスポーツチームを身近に感じられる環境を活かした取り組みを実施し、追浜・久里浜地域を中心としたスポーツによるまちづくりを一層推進していく。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	2	説明資料	59	項目番号	2(1)
事務事業名	商業振興対策事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										商業振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	周遊と消費の促進					
	小柱						
目標	地域経済及び地域コミュニティの核となる商店街の組織力強化や振興を図ることで、市内経済の活性化及び市民生活の利便性向上につなげるため、商店街団体を対象にした諸施策を行う。また、魅力ある店舗や、意欲的な事業者を支援することで、市内消費の拡大及び商業の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	・商店街や関係団体と連携し経済活性化を図る。 ・観光、文化、スポーツなどによる集客を市内消費につなげる。						
具体的な事業内容	(1) 商店街との連携、支援(横須賀市等が行うイベントとの連携や、商店街実施事業への補助金による支援など) (2) 商工会議所等関係団体との連携 (3) 中小事業者のEC導入及びSNS発信等の支援や、店舗出店促進の支援など						

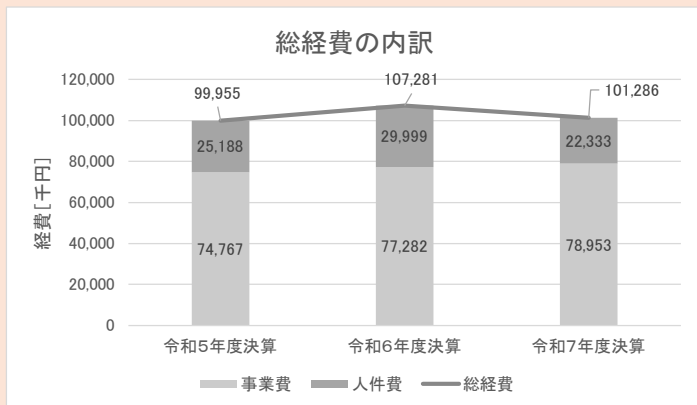
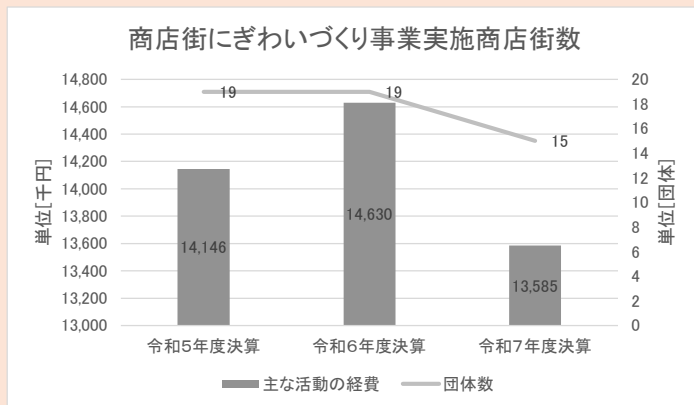
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① 商店街にぎわいづくり事業実施商店街数	団体数	19	19	15	団体
その他の活動実績	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
② 商店街プレミアム商品券事業補助金	件数	10	10	11	件
③ 空き店舗出店促進事業補助金	件数	6	6	8	件

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	74,767	77,282	78,953	98,638	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	14,146	14,630	13,585	18,602	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	60,621	62,652	65,368	80,036	千円
b 人件費	25,188	29,999	22,333	22,133	千円
正規職員	3.0	3.5	2.5	2.5	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	99,955	107,281	101,286	120,771	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	商店街にぎわいづくり事業補助金において、集客力向上モデル事業での申請が19件中2件あり、コロナが明けて新しい事業に取り組む団体が増えてきた。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度 令和6年度に商店街にぎわいづくり事業補助金を活用していた団体が、令和7年度は地域の特性を活かしたまちなか活性化事業補助金を活用したことで、件数や金額が減った。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和5年度は、商店街にぎわいづくり事業補助金の実施支援に加え、物価高騰対策として、商店街街路灯等電気料金等補助金の補助率のかさ上げと、商店街プレミアム商品券事業補助金の補助上限を引き上げ、事業実施を支援した。 令和6年度、令和7年度も、過去2年と同様に、商店街にぎわいづくり事業補助金の実施支援、商店街街路灯等電気料金等補助金の補助率のかさ上げ、商店街プレミアム商品券事業補助金の実施支援を行った。ただし、令和7年度は地元食材を取り扱うショップガイド等の作成(改訂)を行ったため、令和6年度に比べ事業費が増額している。	
今後の事業の方向性	イベントへの補助金や、電気代補助、施設改修補助は商店街団体の運営にも関わる補助のため存続していく。新たな取り組みについては、商店街や事業主の活動意欲が湧くように、毎年検討を行っていく。	

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	2	説明資料	61	項目番号	3(1)
事務事業名	まちなか活性化事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										商業振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	⑤個性ある商店街への支援					
目標	プロスポーツチームのホームタウンやルートミュージアムサテライト、歴史や文化等を活用し、商店街が行う各地域の特色を生かした、観光、集客等につながる活性化策を支援し、まちなかのにぎわいの創出を図る。また、再開発や企業進出等の活性化の芽を商業振興につなげる。						
目標達成に必要なこと	・地域の特色を商店街と共有し、それを活かしたにぎわいの創造。 ・拠点市街地での商業施設・ホテルなどの設置に対する支援制度の継続。						
具体的な事業内容	(1) 商店街との連携、支援(横須賀市等が行うイベントとの連携や、商店街実施事業への補助金による支援など) (2) 民間の力で行われるまちのにぎわいづくり事業との連携、支援を行う。また、他都市等の市街地活性化施策を研究し、まちなかの活性化を図る。 (3) 拠点市街地でのホテル・商業施設の設置を促進するための支援制度の周知を行う。						

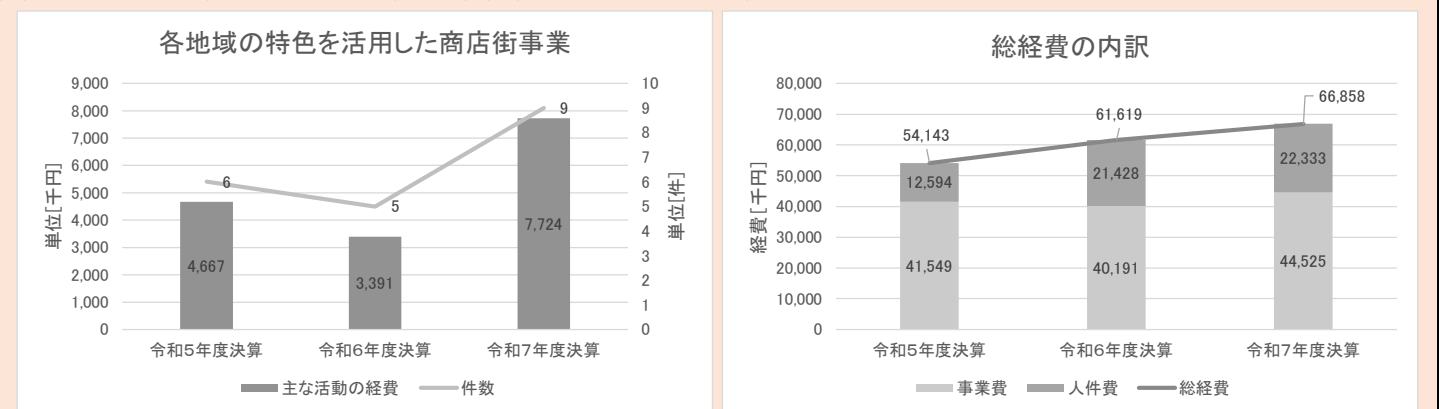
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するためにを行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① 各地域の特色を活用した商店街事業	件数	6	5	9	件
その他の活動実績	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
② 旧三笠駐車場用地ホテル施設誘致にかかる奨励金	件数	1	1	1	件
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	41,549	40,191	44,525	46,220	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	4,667	3,391	7,724	9,000	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	36,882	36,800	36,801	37,220	千円
b 人件費	12,594	21,428	22,333	22,133	千円
正規職員	1.5	2.5	2.5	2.5	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	54,143	61,619	66,858	68,353	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	商店会員減少による資金不足や人手不足により、各地域で事業規模を縮小する傾向にあるが、事業は継続しており近隣住民から好評を得ている。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	各地域でにぎわい創出のために継続して行っている事業に、地域の特色を活かした要素を取り入れ、例年より多くの団体が補助金を活用した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和5年度と令和6年度は、各地域で継続してイベント事業等の支援を行ったが、施設整備がなかったため、件数と決算額が減少している。令和7年度は、上町地域のにぎわいをより促進するため、地域の街並み等を活用した事業への補助を新設した。また、令和6年度に商店街にぎわいづくり事業補助金を活用していた団体が、令和7年度はまちなか活性化事業補助金を活用したことで、件数や金額が増えた。		
今後の事業 の方向性	「旧三笠駐車場用地ホテル施設誘致にかかる奨励金」は、令和7年度が債務負担行為(令和3年度から5年間)の最終年度となり、次年度はホテル等奨励金及び商業等集積奨励金の支出予定はない。市内各所の市街地のにぎわいの促進は継続して行う。新たな取り組みについて、商店街や事業主の活動意欲が湧くように、毎年検討を行っていく。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	64	項目番号	2(1)
事務事業名	観光振興総務費								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										観光課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	周遊と消費の促進					
	小柱						
目標	観光産業を主要産業へ成長させることにより、地域経済の活性化や雇用の増加を図り、市民や市内企業の収入を増やすとともに、市外からの投資も誘引させる。						
目標達成に必要なこと	・本市の自然や日本遺産などの歴史と、音楽・スポーツ・エンターテインメントを融合させ、相乗効果により発信力を高め、他地域と差別化を図る。 ・それにより、これまで横須賀に目を向けることが少なかった客層を誘客し、都市として「楽しそう」「面白そう」「わくわくするイメージ」を発信する。						
具体的な事業内容	・観光施策の実効性の確保のため、観光振興推進委員会を開催する。 ・新たなお土産の開発・支援（おみやげコンテストの入賞作品のPRなど） ・観光客調査を通じて、観光客数や観光動態の状況確認を行い、今後に向けた観光施策の基礎資料とする。 ・海洋都市を目指し、マリナレジャー関連事業を実施し、普及促進を行う						

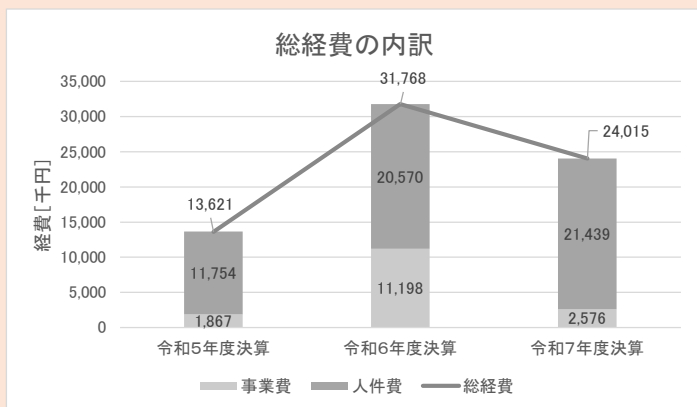
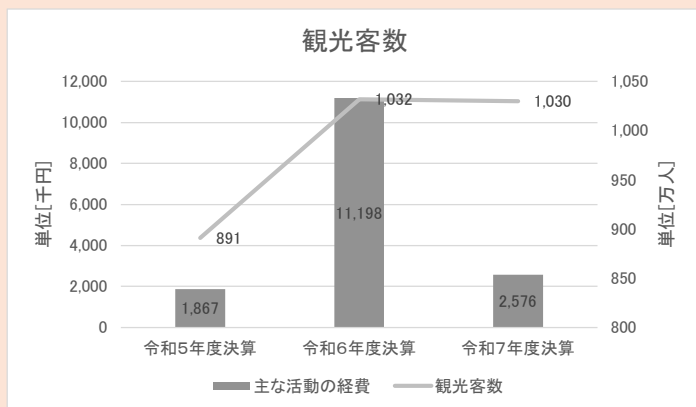
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動（指標）名	令和５年度	令和６年度	令和７年度	単位
① 観光客数	観光客数	891	1,032	1,030	万人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和５年度	令和６年度	令和７年度	単位
② 観光消費額	観光消費額	438	558	596	億円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	1,867	11,198	2,576	3,025	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	1,867	11,198	2,576	3,025	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b 人件費	11,754	20,570	21,439	21,247	千円
正規職員	1.4	2.4	2.4	2.4	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	13,621	31,768	24,015	24,272	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	令和7年度の観光立市推進基本計画及びアクションプランの改定に向けた調査業務を実施したことにより、令和6年度は事業費及び総経費が増となった。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	観光立市推進基本計画(第2次)の策定を行った。令和6年度に行った調査業務を行わなかったため、事業費は減となった。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和7年度は、「おもいやげアイデアコンテスト」の入賞商品の販売会などの開催、例年実施している観光施策の基礎データとなる「観光客入込調査」、「観光客消費額アンケート調査」の実施、横須賀市観光立市推進基本計画の策定を行った。調査業務を実施しなかったため(▲9,272千円)、事業費が減となった。【R5→R6】令和6年度は、令和7年度の横須賀市観光立市推進基本計画の改定に向けた調査業務を実施(9,272千円)したことにより、人工も必要となり、事業費及び人件費ともに増となった。 様々な活動や取り組みの実績により、令和6年には観光立市推進基本計画の目標である1,000万人を超える1,032万人を記録し、過去最高の入込観光客数となった。令和7年は天候不良が続き様々なイベントが中止となったものの、日々の各観光施設の集客力の底上げにより1,030万人の入込観光客数を記録した。		
今後の事業の方向性	今後も、観光産業を主要産業へ成長させることにより地域経済の活性化を図り、そのために必要な事業を継続して実施するとともに、国や県などの補助金の活用や、民間事業者の人材、ノウハウ、資金などを活用し、コラボレーションをすることで、より魅力的で話題性のある事業を展開していく。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	65	項目番号	3(1)
事務事業名	集客プロモーション事業								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										観光課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進					観光立市推進アクションプラン
	小柱						
目標	近隣の市町と比べて、交通の便を含め住環境が良いにもかかわらず人口減少が進んでいる状況である。その原因の一つとして、実際の環境と市の持たれているイメージとの乖離が大きいことが要因であると、これまでの様々なアンケート結果にも出ているところである。こうしたイメージを払拭し、横須賀に良いイメージを持ってもらうことで現状を打破していく。						
目標達成に必要なこと	待ちの姿勢では、民間企業が本市に興味を持ったり、投資や事業を行いたいと思ってくれることはないため、行政自身が常に新しい試みにチャレンジして起点を作り、その展開を発信し続けなければならない。様々な分野で最先端の技術を取り入れたチャレンジを続け、発信することで本市の「ワクワクできる街、楽しそうな街、チャレンジできる街、チャレンジしている街」としてのイメージを定着させていく。						
具体的な事業内容	(1) ルートミュージアムの推進による市内周遊の促進(周遊満足度の向上、ICTの活用、移動手段の充実など) (2) サブカルチャーを活用した新しい層の取り込み (3) スポーツを活用した集客 (4) 情報発信(SNSや観光情報サイト、インバウンド等の対策)						

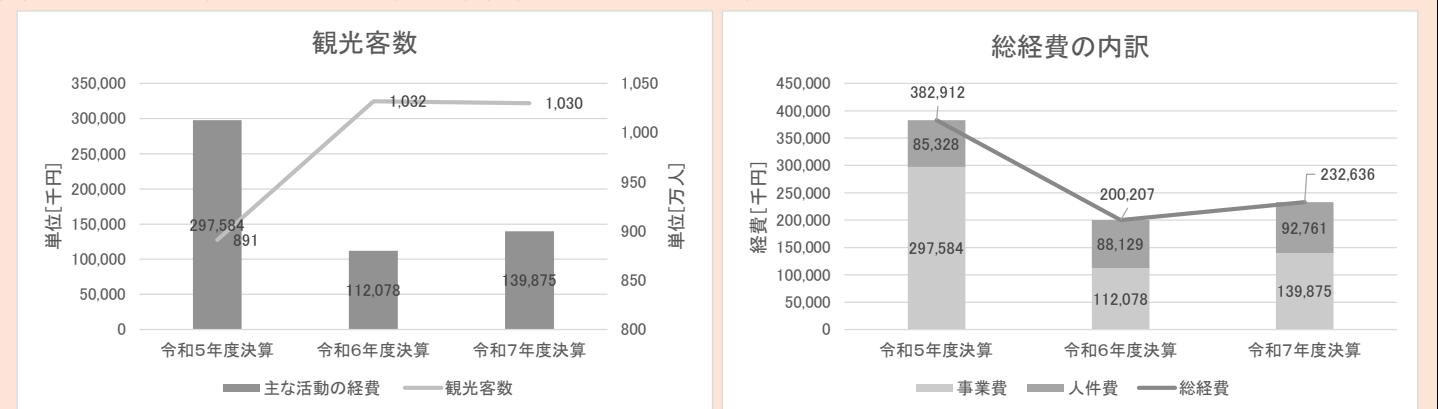
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① 観光客数	観光客数	891	1,032	1,030	万人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
② 観光消費額	観光消費額	438	558	596	億円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	297,584	112,078	139,875	145,815	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	297,584	112,078	139,875	145,815	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b 人件費	85,328	88,129	92,761	87,733	千円
正規職員	9.0	9.0	9.0	8.5	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	9,764	10,990	12,364	12,482	千円
総経費（a + b）	382,912	200,207	232,636	233,548	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	・「西地区地域芸能と秋の盆踊り」におけるドローンショーの実施(新) ・九州及び首都圏エリアからの観光客誘致促進キャンペーンの実施(新) ・海上交通やヘリコプターを活用したインバウンド向け高付加価値ツアーによる誘客の実施
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和5年度は、コロナ5類移行を受け、MEGURU PROJECTの規模拡大や新規施策、メタバース活用で観光入込客数は875万人(令和元年度超)を達成。積極的な事業展開により総経費は増加した。 令和6年度は、メタバース経費は40,000千円減額も、ワールド訪問20万・アイテムDL5万を達成。三笠循環バス利用者は指定寄附活用により過去最高の42,922人を記録。観光入込客数は初めて1,000万人を超えた。一方で、総経費はMEGURU PROJECT等一部見直しで減少した。 令和7年度は、三笠循環バス利用者とは前年度に引き続き指定寄附活用により、過去最高の47,821人を記録。メタバース事業では、観光アドバイザー(デジタル観光戦略専門委員)の提案・助言を受けたイベント開催などにより、ワールド訪問24万人・アイテムDL14万を達成。九州及び首都圏エリアからの観光客誘致促進キャンペーン等の新規事業により、総経費は増加した。 なお、各年度で、コンサル事業者からの市内イベントへの観光・誘客目録での事業提案・アドバイスをいただきながら、より良い事業展開を図っている。	
今後の事業の方向性	引き続き、新たな観光の核となる拠点の創出、地域資源を線でつなぎ面で展開するしくみづくり、地域資源と音楽・スポーツ・エンターテインメントとの融合、消費につながる魅力的なモノ・コトの創出、民間事業者等とのコラボレーションによる新たな魅力発信、地域の特性やインパクトのあるイベントを活用した効果的なプロモーションの実施を行うことで、ルートミュージアムを核とした観光立市を実現する。	

令和 8 年度 事務事業等の総点検

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
------	-----	------	----	-------	----	---------	----

分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務				
根拠法令					
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興		分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進			観光立市推進アクションプラン
	小柱				
目標	近隣の市町と比べて、交通の便を含め住環境が良いにもかかわらず人口減少が進んでいる状況である。その原因の一つとして、実際の環境と市の持たれているイメージとの乖離が大きいことが要因であると、これまでの様々なアンケート結果にも出ているところである。こうしたイメージを払拭し、横須賀に良いイメージを持ってもらうことで現状を打破していく。				
目標達成に必要なこと	待ちの姿勢では、民間企業が本市に興味を持ったり、投資や事業を行いたいと思ってくれることはないため、行政自身が常に新しい試みにチャレンジして起点を作り、その展開を発信し続けなければならない。様々な分野で最先端の技術を取り入れたチャレンジを続け、発信することで本市の「ワクワクできる街、楽しそうな街、チャレンジできる街、チャレンジしている街」としてのイメージを定着させていく。				
具体的な事業内容	(1) ツアーセールス：団体客誘致（バスツアー等）のためのセールス活動 (2) メディアセールス：テレビ、新聞、雑誌、WEB等のメディアでの露出を図るためのセールス活動				

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
----------------------------------	---------	-------	-------	-------	----

① 観光客数	観光客数	891	1,032	1,030	万人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	単位
② 観光客消費額	観光客消費額	438	558	596	億円
③					

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
-----	-----------	-----------	-----------	-----------	----

a	事業費（予算現額・支出済額）	50,622	58,145	43,813	44,025	千円
	主な活動の経費（※上記(2)①）	50,622	58,145	43,813	44,025	千円
	その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	0	0	0	0	千円
b	人件費	12,594	12,857	13,400	13,280	千円
	正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
	再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
	会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
	総経費（a + b）	63,216	71,002	57,213	57,305	千円



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	令和6年度は、令和4年度以前と同じく、横須賀乗客促進・魅力発信実行委員会にて観光協会への委託により、セールスプロモーション事業を実施した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	バスツアー助成金事業について、助成額をこれまでの1／2に減額した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	【ツアーセールス】 バスツアー助成事業について、新型コロナウイルス感染症による観光客減少への対策として令和2年度に助成額を増額したが、同感染症による影響の収束に伴い令和7年度は助成額を減額したため、決算額が減となった。(▲13,470千円) 一方で、バス代が高騰しているため当該助成事業はツアー造成や観光PR等に繋がっている。(令和5年度:641件 23,960千円、令和6年度:631件 23,820千円、令和7年度:540件 10,350千円) 【メディアセールス】 令和5年度より体制強化のため観光協会の人員を0.5人増。また、観光協会からの提案により、令和6年度から市内のロケ地拡大や手厚い撮影支援の実施による撮影件数の増等を目指すロケーションサポート事業をスタートさせた。ロケ成立件数は令和6年度の109件から令和7年度には144件に増加した。 令和6年度は企業版ふるさと納税を活用した番組誘致を行った(9,400千円)		
今後の事業の方向性	引き続き新たな観光の核となる拠点の創出、地域資源を線で見つなぎで展開するしくみづくり、地域資源と音楽・スポーツ・エンターテインメントとの融合、消費につながる魅力的なモノ・コトの創出、民間事業者等とのコラボレーションによる新たな魅力発信、地域の特性やインパクトのあるイベントを活用した効果的なプロモーションの実施を行うことで、ルートミュージアムを核とした観光立市を実現する。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

(1) 事務事業の概要								
実施分類	その他	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定	

分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務
----	---

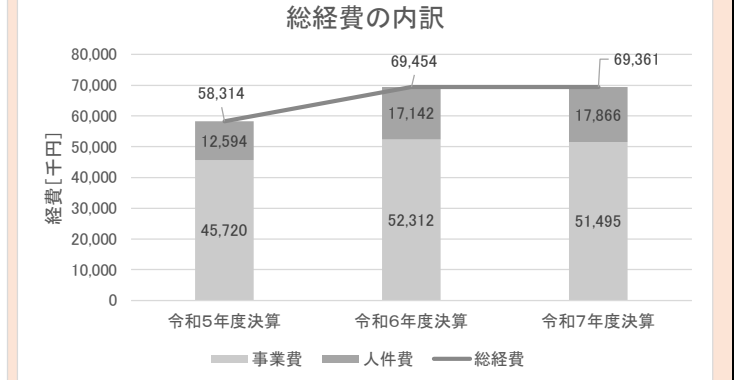
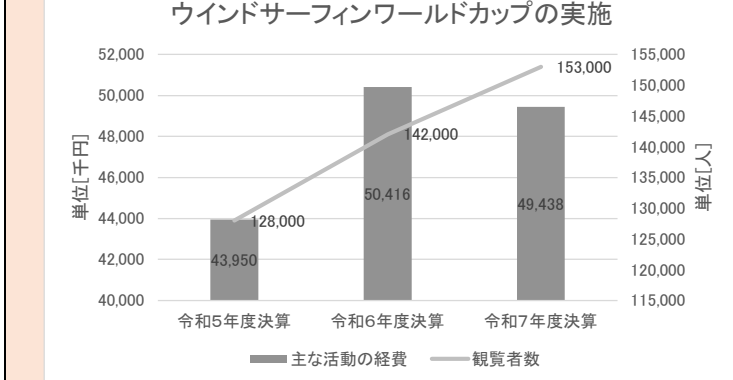
根拠法令				
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興	分野別計画	
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出		
	小柱	②マリンスポーツ、マリンレジャーによるにぎわいづくり		
目標	ウインドサーフィンワールドカップの開催を契機に、まちに賑わいを創出し、「ウインドサーフィンのまち」としての地域ブランド力の向上を図り、地域の活性化を目指す。			
目標達成に必要なこと	・ワールドカップを継続的に開催するために、民間企業など外部団体からの支援、協力をしていただけるような大会づくりを行う ・目指すまちづくり、賑わいの創出に地域住民が率先して参加できるような環境づくりを行う			
具体的な事業内容	・津久井浜海岸でのウインドサーフィンワールドカップの継続開催 ・全日本ウインドサーフィンフリースタイル大会およびウインドサーフィンドリームカップの誘致 ・iQフォイル強化練習会の誘致 ・ジュニアトッパスリート発掘・育成のためのウインドサーフィンアカデミーの実施 ・ワークプレイスとマリンスポーツが体験できるワーケーション環境の整備			

主な活動又は活動結果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
----------------------------------	---------	-------	-------	-------	----

① ウインドサーフィンワールドカップの実施	観覧者数	128,000	142,000	153,000	人
② 全国大会や練習会の誘致	誘致件数	3	3	3	回
③ ウインドサーフィアカデミーの実施	受講者数	6	8	3	人

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
-----	-----------	-----------	-----------	-----------	----

a 事業費（予算現額・支出済額）	45,720	52,312	51,495	54,893	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	43,950	50,416	49,438	52,811	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	1,770	1,896	2,057	2,082	千円
b 人件費	12,594	17,142	17,866	17,706	千円
正規職員	1.5	2.0	2.0	2.0	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	58,314	69,454	69,361	72,599	千円



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	・附帯イベントの拡充(在日フランス商工会議所とのタイアップ、全国の地方物産展ほか) ・イベントゴミの排出ゼロを目指し再資源化を図る活動 ・toto助成金の補助対象経費の見直し ・ふるさと納税による資金調達スキームの確立	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度 ・風待ちイベントの拡充 ・附帯イベントの拡充(フランスフェア、全国の地方物産展の開催日数増ほか) ・ふるさと納税による資金調達スキームの拡充(返礼品追加) ・民官連携イベントの誘致(ビーチサッカーフェスティバル、デジタルサインージ搭載型ガチャほか)
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	・令和5年度は、オンライン配信を継続するとともに、YouTube等のSNSを中心としたデジタルプロモーションを強化することで、大会観覧者数を大きく伸ばした。(来場者数32,000人、動画観覧数96,000人) ・令和6年度は、従来の世界トッププロ選手によるスラロームレースのほか、民間事業者等と連携した附帯イベントを拡充させ、ウインドサーフィンの愛好者以外にも興味関心を惹きつける集客コンテンツを展開し、過去大会最高となる観覧者数を記録した(来場者数33,000人、観覧者数109,000人)。また、toto助成金の補助対象経費の見直しやふるさと納税の積極活用により、新たな財源確保を図った。 ・令和7年度は、開催期間中の天候にも恵まれ、附帯イベントの拡充等により、過去大会最高となる観覧者数を記録した(来場者数38,000人、観覧者数115,000人)。	
今後の事業の方向性	ワールドカップに関しては、2026年大会以降も継続開催できるよう、資金調達のスキームを確立させ、持続可能な大会運営を図っていく。その他の事業に関しては、既存の事業を継続実施し、マリンスポーツの裾野を広げるなど、さらなる交流人口の増加、民間企業による投資促進などを目指す。	

令和 8 年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	74	項目番号	7(1)⑤
事務事業名	大規模スポーツ大会等誘致事業 (BMXフリースタイルジャパンカップの誘致等)								所管部課名	文化スポーツ観光部		
										企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					横須賀市スポーツ推進計画
	小柱	③アーバンスポーツ、eスポーツによるにぎわいづくり					
目標	BMXフリースタイルジャパンカップの誘致・開催を契機に、アーバンスポーツの普及・振興および地域活性化を図る。 また、アーバンスポーツを文化として根付かせ、アーバンスポーツの聖地として若者が集うまちとなり、本市の新たな魅力を創出・発信していく。						
目標達成に必要なこと	・（一社）全日本フリースタイルBMX連盟や関連団体・企業との連携 ・地元住民や子供を中心とした普及活動を実施し、「アーバンスポーツのまち横須賀」の認知度向上 ・BMXフリースタイルジャパンカップを継続開催するための国や県の補助金・大会開催パートナーの獲得、さらにはアーバンスポーツツーリズムへの展開を行う						
具体的な事業内容	・BMXフリースタイルジャパンカップの誘致・開催 ・アーバンスポーツツーリズムのコンテンツ創出に向けた取り組み（普及事業）の実施（学校訪問、体験会、デモンストレーション等） ・うみかぜ公園BMXパークのオープンおよび新たな施設整備に向けた調整と財源を含めた検討						

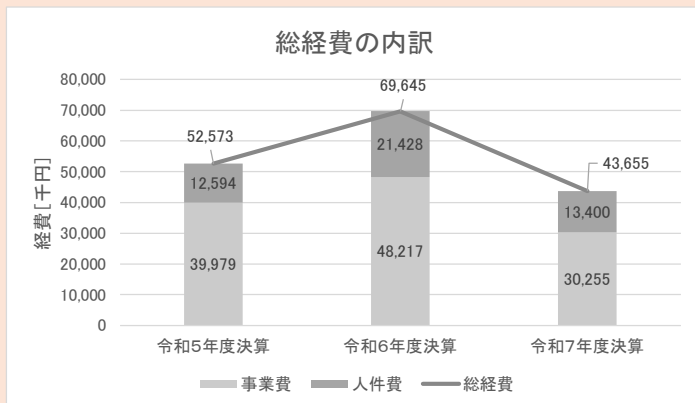
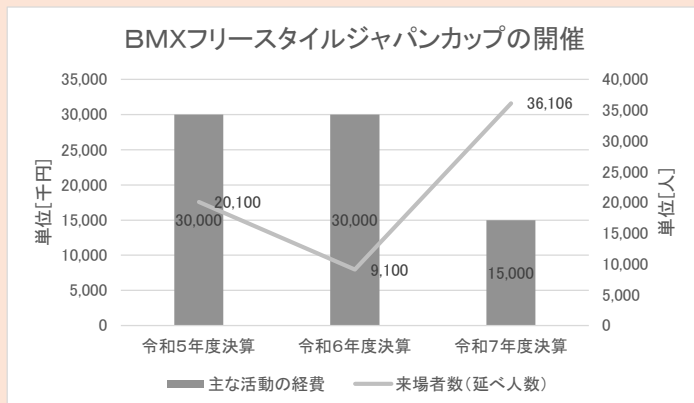
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するためにを行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
① BMXフリースタイルジャパンカップの開催	来場者数(延べ人数)	20,100	9,100	36,106	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
② BMXを中心としたアーバンスポーツ普及事業の実施	参加者数	2,624	10,767	4,663	人
③ うみかぜ公園BMXパークのオープン	利用者数	1,507	1,090	354	人

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源（人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります）

区 分	令和 5 年度決算	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 7 年度予算	単位
a 事業費（予算現額・支出済額）	39,979	48,217	30,255	31,049	千円
主な活動の経費（※上記(2)①）	30,000	30,000	15,000	15,000	千円
その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）	9,979	18,217	15,255	16,049	千円
b 人件費	12,594	21,428	13,400	22,133	千円
正規職員	1.5	2.5	1.5	2.5	人
再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
総経費（a + b）	52,573	69,645	43,655	53,182	千円

(4) 年度ごとの推移（【主な活動の実績（※上記(2)①）】と【総経費の内訳】）



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	令和5年度に引き続き令和6年度も大会を実施した。 雨天等による中止に備え、大会開催期間を3日間から4日間に増やした。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	令和6年度に引き続き、令和7年度も大会を4日間で実施した。 令和7年度は、会場をヴェルニー公園に変更して開催した。 また、継続開催によるノウハウの蓄積等を踏まえ、民間連携により、大会にかかる経費の見直しや負担割合の調整を行い、市の大会負担金を減額した。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と 【総経費の内訳】の増 減理由等)	令和4年度に初開催したBMXフリースタイルジャパンカップを、令和5年度は、さらに国際大会として開催したことや、東京オリンピック選手の出場などの注目度、地元の関心等の向上により、前年度を大きく上回る来場者数となった。 令和6年度も引き続き国際大会として開催したが、雨天等によりプログラムの一部が中断・中止となったことから来場者数が伸びなかった。一方で、パルクール大会への奨励金交付やBMXスクールの開催、アーバンスポーツの啓発など、普及事業において新たな取り組みを行ったため、事業費及び人員が増加した。 令和7年度は大会会場をヴェルニー公園に移したことや大会期間中の天候の崩れがなかったことから、大会来場者数が例年を大きく上回った。総経費においては、主にジャパンカップの大会負担金の減額とBMXパークの営業日を減らしたことから、事業費が減となった。		
今後の事業 の方向性	引き続き民間連携によりジャパンカップを開催するとともに、BMXを中心としたアーバンスポーツの普及事業を継続的に実施することで、アーバンスポーツを通じた地域活性化を図り、交流人口の増加や本市の魅力発信につなげる。また、市内のアーバンスポーツ選手やアーバンスポーツ普及にかかる民間事業者の取り組みの支援により、「アーバンスポーツのまち横須賀」の更なる推進に取り組む。		

令和 8 年度 事務事業等の総点検

(1) 事務事業の概要							
実施分類	事業名称	財源構成	事業年度	受益者数(人)	事業費(千円)	事業終了の月日	備考

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
------	------	------	----	-------	----	---------	----

分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務				
根拠法令					
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興		分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進			
	小柱	②宿泊者等の増加			
目標	学会・スポーツ大会・スポーツ合宿を誘致し、来訪者の宿泊、飲食、観光等による経済効果の増加や、市のブランドイメージの向上と発信を図る。				
目標達成に必要なこと	学会の開催やスポーツ合宿について働きかけを行うとともに、運営面等を積極的に支援する。				
具体的な事業内容	(1)一般社団法人横須賀市観光協会への補助金交付、連携および支援 (2)会場の優先予約				

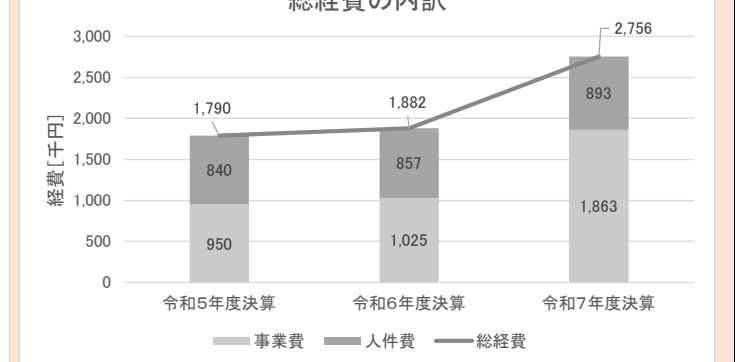
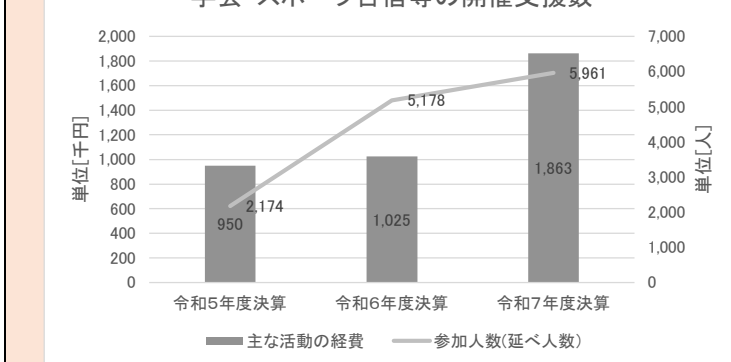
主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位
---	---------	-------	-------	-------	----

① 学会・スポーツ合宿等の開催支援数	参加人数(延べ人数)	2,174	5,178	5,961	人
その他の活動実績	活動（指標）名	令和５年度	令和６年度	令和７年度	単位
② 学会・スポーツ合宿等の開催支援額	補助金交付額	950	1,025	1,863	千円
③					

区 分	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度決算	令和7年度予算	単位
-----	---------	---------	---------	---------	----

a	事業費（予算現額・支出済額）	950	1,025	1,863	2,800	千円
	主な活動の経費（※上記(2)①）	950	1,025	1,863	2,800	千円
	その他の活動経費（※上記(2)①以外の経費）					千円
b	人件費	840	857	893	885	千円
	正規職員	0.1	0.1	0.1	0.1	人
	再任用職員（短時間を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	人
	会計年度任用職員（フルタイム、パートタイム）	0	0	0	0	千円
	総経費（a + b）	1,790	1,882	2,756	3,685	千円

学会・スポーツ合宿等の開催支援費	総経費の内訳
------------------	--------



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	特になし	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R6年度⇒R7年度	宿泊対象施設の拡充を行った。スポーツ合宿等開催支援補助金については、補助金額の見直しや、最低宿泊者数の引下げ、交付回数上限撤廃等により補助対象を見直すとともに、本市へのさらなる誘客及び経済効果が期待できることから補助対象に「文化活動」を追加する等の要領の改正を行った。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と 【総経費の内訳】の増 減理由等)	令和5年度は、コロナが5類感染症に移行したことにより参加人数の多い学会およびスポーツ大会の開催が増え参加人数が増加したが、補助金交付業務も一般社団法人横須賀市観光協会に移管したことに伴う人件費の削減により、総経費が減となっている。 令和6年度は、参加人数の多いスポーツ合宿の増加や観光協会の支援により再来訪となる大会・合宿があったことにより活動実績は増となり、総経費も微増となった。 令和7年度は、補助対象範囲の拡充・補助金額の見直しなどの要領の改正を行ったことにより、学会・スポーツ合宿ともに開催支援数・総経費が増となった。		
今後の事業 の方向性	来訪者の平均消費単価の増加、宿泊者数の増加に向けて、観光周遊および宿泊や食事の手配代行、補助金支出業務など観光協会による団体へのさらなる支援を働きかけていく。さらに本補助金をより活用しやすい制度とするために、補助対象範囲の拡大など要領の改正を行っていく。		